

「健康麻雀」で元気に

エリソン
開智 クラブ発足から1年

松本市開智の介護付 有料老人ホームエリソン開智で、お年寄りらの健康麻将（マーシヤン）クラブが発足し1年。健康麻将講師の岡田和彦さん（56、出川）の指導の下、会員数は昨年7月の発足時の8人から15人に増え、第2月曜の開催日以外にも自主的に楽しんでいる。

8月の開催日の8日は10人が参加。3卓に分かれ、岡田さんと施設の職員3人がサポートした。参加者は「何回やっても初心者ですが真剣ですよ」と、捨てる牌（はい）を真剣に考えたり、冗談を言い合ったり、相手の体調を気遣ったりしながらゲームを進めた。



職員（奥2人）のサポートでゲームを楽しむ入居者たち

この日は「麻雀は賭け事」というイメージから入会を決めかねていたという70代の女性

が体験し、終了後には「楽しかった。頭を使うのがいい」と入会を決めた。担当職員の田村恵さん（43、野溝木工）は「最近では『勝ちたい』という意欲も出てきている。さらに参加者が増えるといい」と話す。

岡田さんは「金を賭けない、酒を飲まない、たばこを吸わない」が健康麻将の理念」とし、「健康麻将には、人を元気にする可能性がある。取り入れる施

設が増えるといい」と話していた。